



マナウス日本人学校 学校便り

マナウス

平成 29 年 (2017) 年 7 月 14 日 第 5 号

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)

1 学期の教育活動へのご協力に感謝申し上げます！

マナウス日本人学校長 中 川 勝 美

明日から子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。保護者の皆様をはじめ、日本国総領事館や日本文化振興会及び企業の方々、そして日系社会やブラジルの関係者の皆様のご理解とご協力により、子供たちが無事に夏休みを迎えられることに感謝申し上げます。

さて、現地理解教育の特別講師として写真家の山口大志さんをお招きし、講演をしていただきました。アマゾンの美しい写真を見せていただきながら、写真をとった時の貴重なエピソードやその時の思いを聞かせていただきました。

山口さんの言葉一つ一つから、「一枚の写真をとるために、気の遠くなるような我慢が必要だ。しかし、それ以上に『好きなものをとことん追いつけたい』という自然に魅せられた熱い思い」が、強いメッセージとして子供たちの心を揺さぶったようでした。

植物がたくましく伸びゆく自然の姿は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。その草や木の成長にとってなくてはならないのが、雨の日であり、晴れた日です。

もし、雨ばかり降っていれば、植物は根が腐って育ちません。逆に、晴れの日ばかりでは、水分がなくなって枯れてしまいます。このように、植物の成長には反対のもの同士が必要です。子供の心の成長にも、雨と晴れのようにまったく反対のものが重要です。

それらは、「優しさ」と「厳しさ」です。「優しさ」だけでは甘えが出たり、わがママが出たりして、良い心は育ちません。また、逆に、「厳しさ」だけでも気持ちがすさんだり、いじけたり、いらいらしたりして、良い心は育ちません。

子供たちは、一日の中で何回か注意されたり、ほめられたりする機会があります。ご家庭でも同じではないでしょうか。厳しく叱ったり指摘したりした後でも、なぜ注意されたのか気付くようになれば、ほめてあげることが大切です。子供たちは時々失敗をすることがあるかもしれませんが、そのときに注意されたり、励まされたりすることによって、的確な判断ができる人間に育っていきます。このようなことを繰り返して経験することにより、社会の一員として、自覚を持った人間に成長していくのだと思います。

「あたりまえ」を「ありがとう」と言うのが感謝

「あたりまえ」を「ありがとう」と言うのが感謝
「だから、なに？」を「おめでとう」と言うのが賞賛
「もう、ダメだ」を「これからだ」と言うのが希望
「なりたいな」を「なつてやる」と言うのが決意
「もういいや」を「まだ待とう」と言うのが忍耐
「疲れた」を「頑張った」と言うのが努力

学校から離れるこの期間、学習や生活のめあてをもち、普段できないことを自分の計画にそってご家族と一緒に有意義に過ごしてほしいと思います。また、学校でも夏休みの過ごし方について十分に指導しましたが、ご家庭でも交通事故や水の事故・事件等にあわないようにしっかり話し合ってください。

楽しい夏休みが過ごせることを願っています。1 学期のご支援とご協力に感謝申し上げます。

8・9 月行事予定